

山元真依 さん (生命科学科2018年度卒)

シミックファーマサイエンス株式会社
清教学園高等学校 (大阪府) 出身



Q 今はどういのお仕事をされていますか？

[シミックファーマサイエンス株式会社](#)というCRO（医薬品開発支援）業界の会社で技術者として働いています。業務内容は、製薬企業や大学からの依頼を受けて生体内の薬物濃度測定をすることで、新薬やジェネリック医薬品を販売するための承認を得るお手伝いをしています。製薬企業のように表に名前が出るわけではなく、かつ医薬品が承認されるまでには相当な時間を要するので、なかなかやりがいを感じることは難しいですが、正確かつスピーディーに測定をすることで委託者様から感謝して頂いたり、この医薬品を待っている人に少しでも早く届いてほしいという気持ちで働いています。

Q 庄原キャンパスでの学生時代はどういうふうにご過ごされていましたか？

研究室に配属されるまでの1~2年生の間は、学業に励みつつ、野球部のマネージャーとしてプレーヤーたちを支えていました。3年生で研究室に配属されてからの2年間は研究室が主体となり、私は舌がん細胞に対する高濃度ビタミンCの影響に関する研究に取り組んでいました。また、学外では4年間続けたアルバイトを通じて、地域の方々と交流したり、庄原キャンパスではほとんどが一人暮らしのため、よく友達と集まりワイワイしていることが多かったです。

Q 庄原キャンパスで学んだことは今のお仕事などにどのようにいかせていますか？

研究室では先生と実験結果を確認しながら次はどのような検討をしていくか方針を決めながら研究を進めます。実験スケジュールについては、各自に任されており、授業等の兼ね合いを考えながら進めていました。初めのうちはなかなか上手くスケジュールを立てることができませんでしたが、繰り返すうちに徐々に調整できるようになりました。そういった学生時代の積み重ねのおかげか、今では測定スケジュールを立てることが難しくこなせており、上司からも私のスケジュール調整を見習って欲しいと後輩たちのお手本となっています。

また、学生時代、細胞が上手く増殖しないことがあり、毎日一つずつ考えられる原因を試しながら原因を追究している時期がありました。今の仕事でも上手くいかないことがあったら何が原因なのか、きちんと究明してから次の仕事に進むようにしています。原因究明をする作業はとても大変で、心が折れそうになることもあります。研究室で毎日コツコツ積み重ねた時間や経験が今に活かされていると感じています。

Q 他の都道府県から庄原キャンパスに来られていかがですか？ 広島から離れて広島への思いは？

入学が決まって初めて庄原キャンパスに来た時、すごく田舎だなと思いました。初めての一人暮らしということもあり、本当にここで生活していけるのだろうか・・・という不安が正直ありましたが、田舎だからこそ学べることもありました。例えば、広大な畑や果樹園があるため1年間を通したフィールドの授業を受けることができました。また、一人暮らしの人がほとんどということもあり、友達、先輩や後輩との距離がとても近くて良かったです。卒業して4年経った今でも連絡を取って会うこともあります。学生時代にすごく近い距離で過ごせたからこそだと思います。

アルバイトを通じて出会った地域の方々は、皆さんとてもやさしくて庄原でのお父さん、お母さんみたいな方が多いです。卒業後の今でも気にかけて下さる方もいます。私は卒業後、広島を離れ兵庫県で暮らしていますが、庄原はわたしの第二の故郷のような感じです。コロナが少し落ち着いたらまた訪れたいと思っています。

Q 最後に何かひとこと

大学生は自由な時間も増え、自主的に行動することが多くなります。色んなことに挑戦するのもありだし、一つの何かに打ち込んでそれを伸ばすのもありだと思います。大学生活の4年間は長いようであっという間に終わってしまいます。将来の自分のためにも幅を広げることができるように頑張ってください。

